

## 第2章 地域福祉をめぐる町の現状と課題

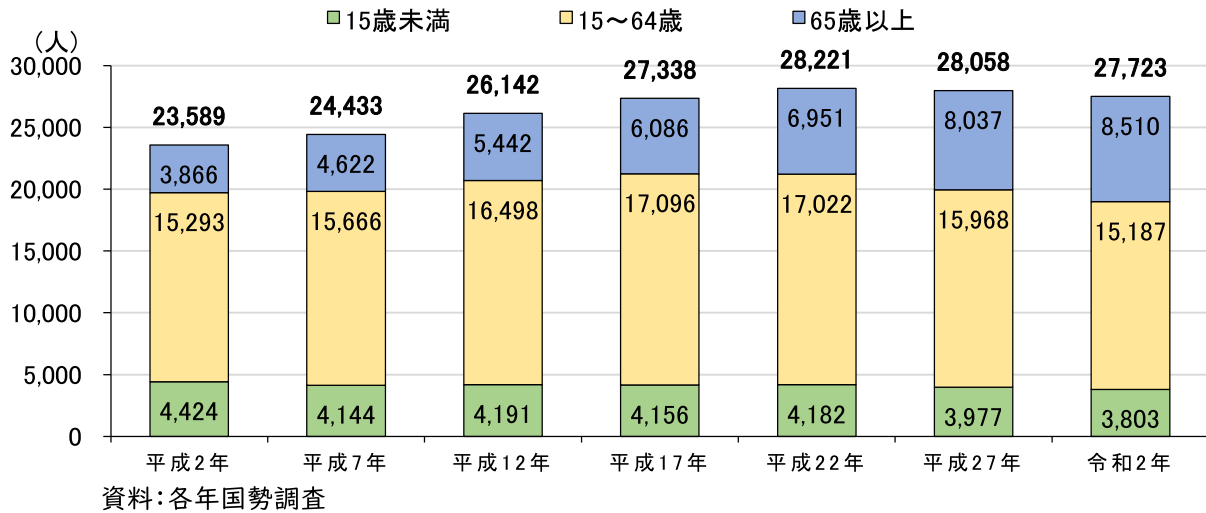


# Ⅰ 統計からみる本町の現状

## (1) 年齢3区分人口の推移

日出町の総人口は、増加傾向で推移していましたが、平成22年頃をピークに減少傾向に転じています。一方、65歳以上の人口割合は、年々上昇しており、令和2年の総人口の約30%は65歳以上となっており、今後も高齢者割合は上昇することが予想されます。

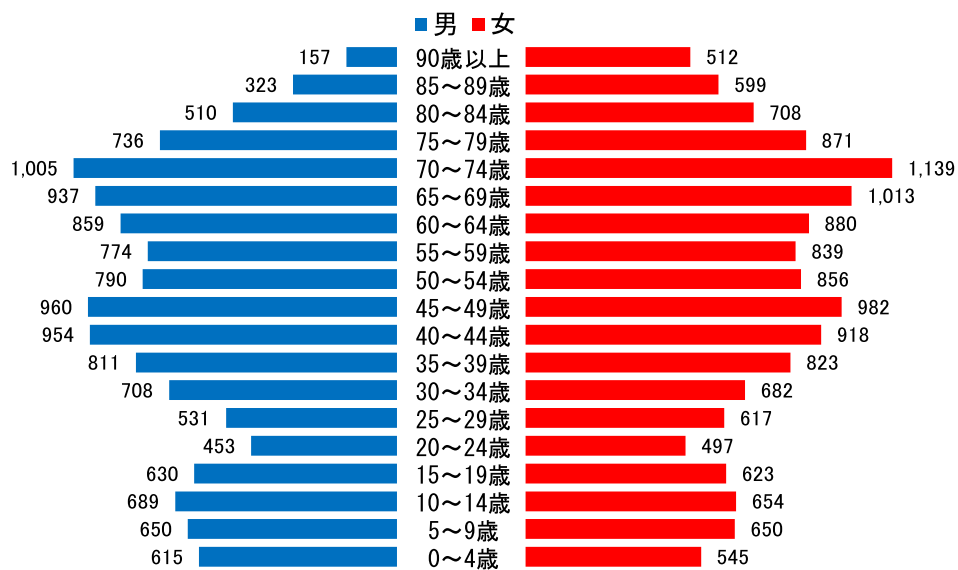
図 年齢3区分人口の推移



## (2) 男女別年齢階級別人口

日出町の男女別年齢階級別人口をみると、「70～74歳」が最多年齢帯となっており、次いで「65～69歳」となっています。

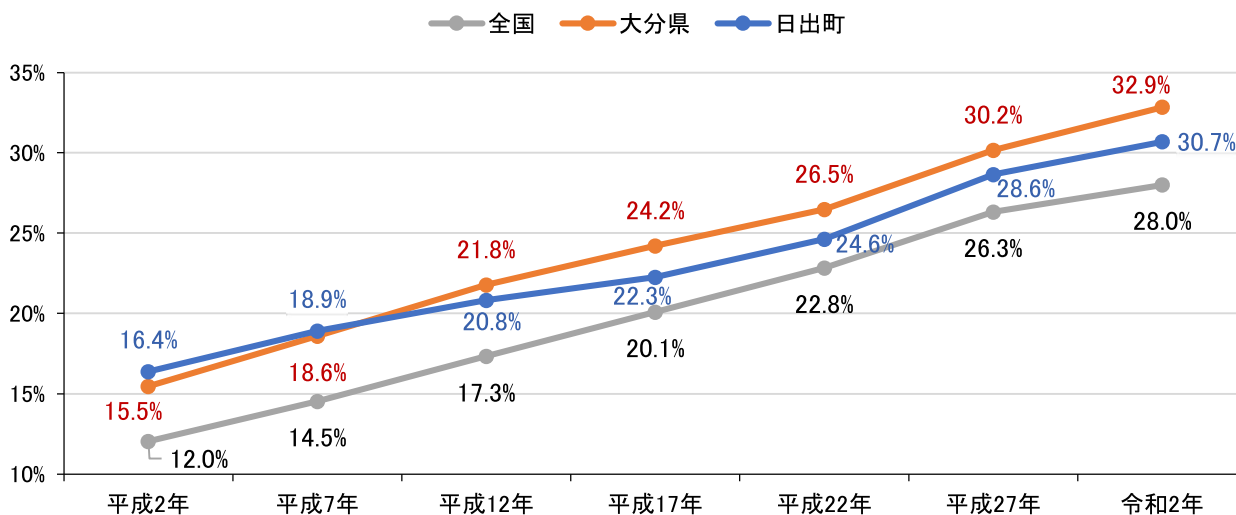
図 男女別年齢階級別人口(令和2年)



### (3) 高齢化率の推移

日出町の高齢化率は年々上昇し、令和2年には30.7%となっています。国や県と比較すると、国より高く、県より低い状況です。

図 高齢化率の推移

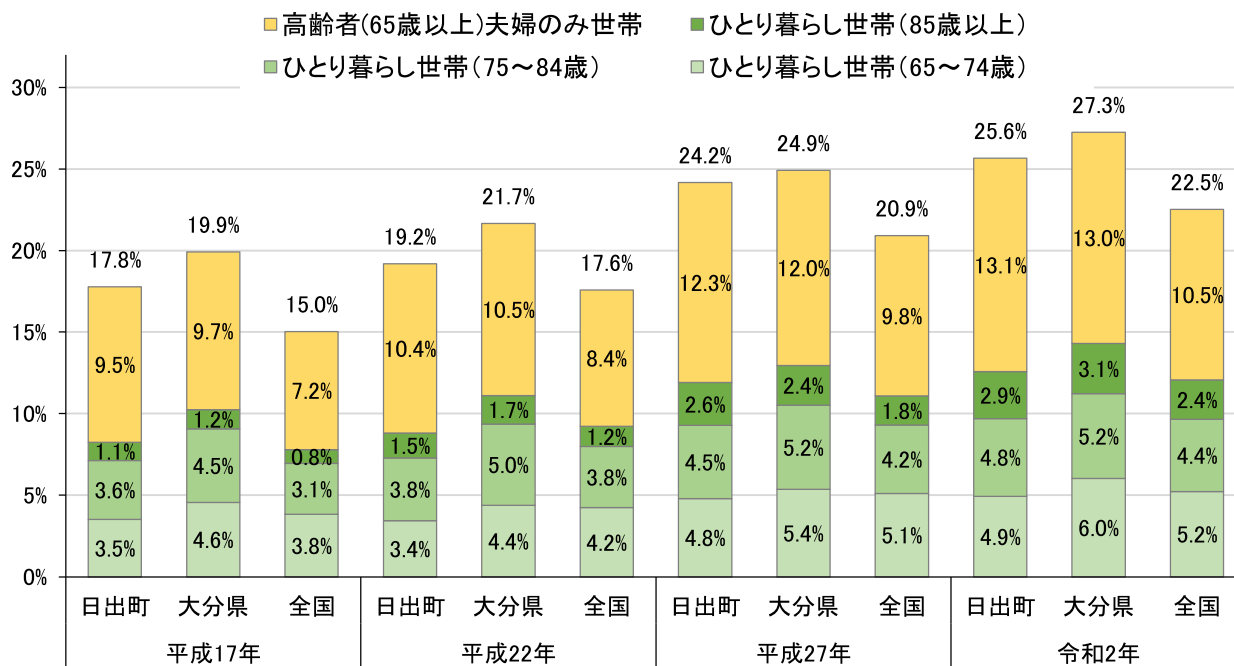


資料:各年国勢調査

### (4) 高齢者のみ世帯の推移

日出町の一般世帯数に占める高齢者のみの世帯割合は年々上昇しており、令和2年の高齢者のひとり暮らし世帯は、一般世帯数の12.6%を占めています。

図 高齢者のみ世帯の推移

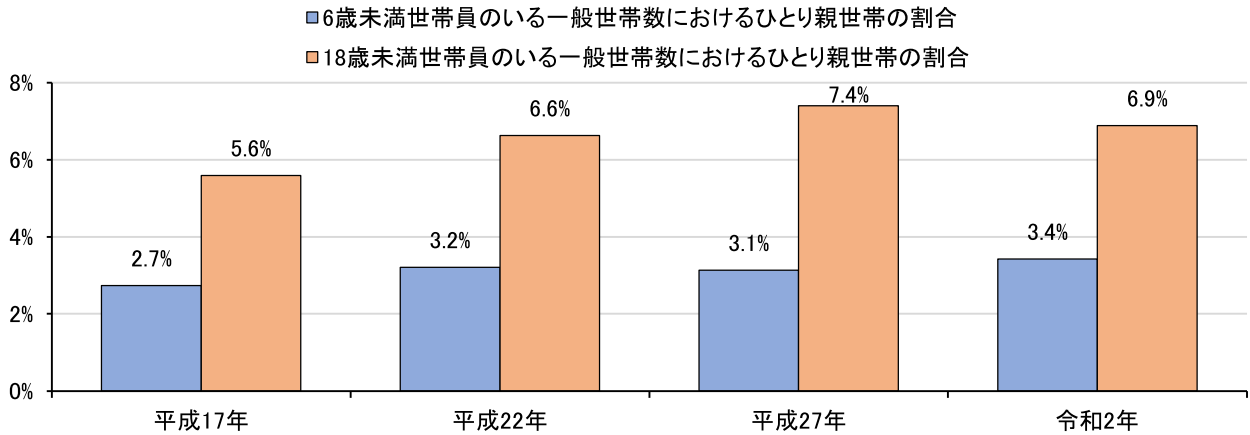


資料:各年国勢調査

## (5) ひとり親世帯の推移

日出町の6歳未満世帯員のいる一般世帯数に対する母子家庭・父子家庭の割合は約3%、18歳未満世帯員のいる一般世帯数に対する母子家庭・父子家庭の割合は約7%となっています。

図 ひとり親世帯の推移

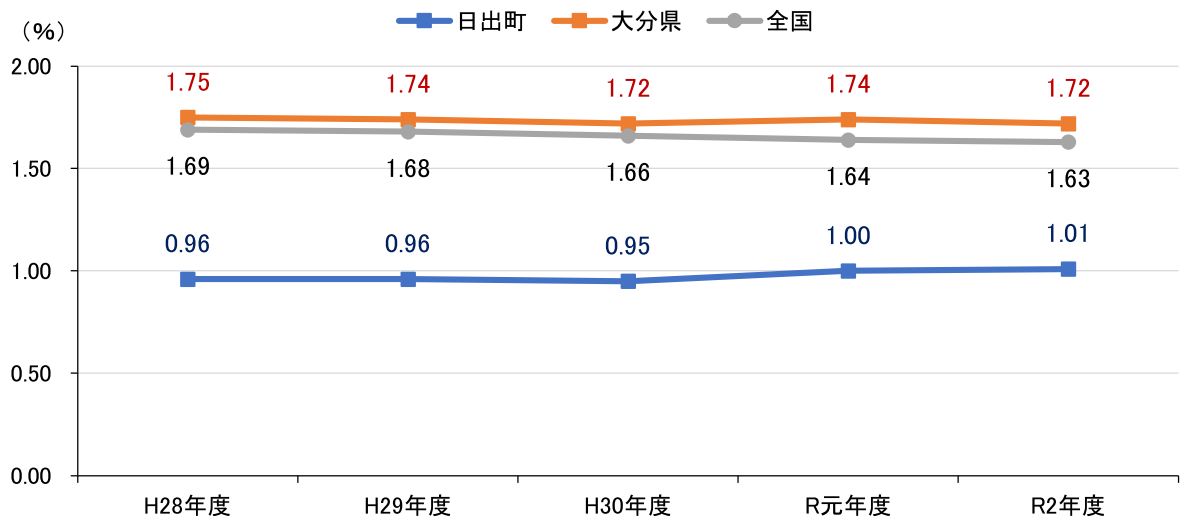


資料：各年国勢調査

## (6) 生活保護率の推移

日出町の生活保護率は、国や県と比較して低い割合で推移していますが、近年は微増しています。

図 生活保護率の推移



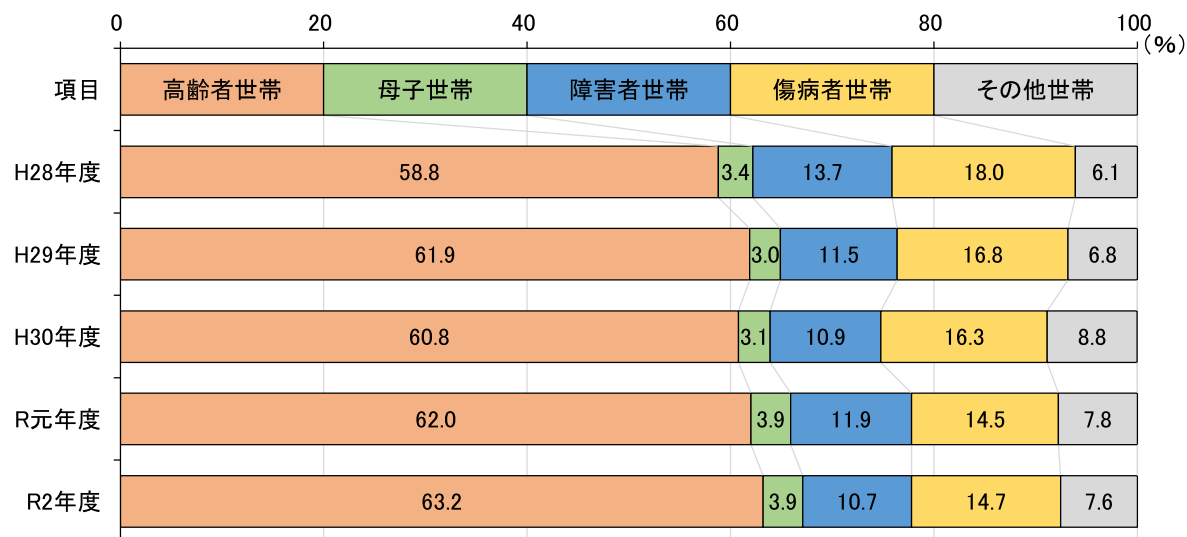
資料：大分県の生活保護（令和2年度実績報告）

## (7) 世帯類型別被保護世帯数の構成比の推移

日出町が属する東部地区の世帯類型別被保護世帯数の構成比の推移をみると、最も比率の高い高齢者世帯は、増加基調にあり、令和2年には63.2%となっています。

令和2年の世帯類型別被保護世帯数の構成比を国・県と比較すると「高齢者世帯」、「傷病者世帯」で国・県を上回っています。

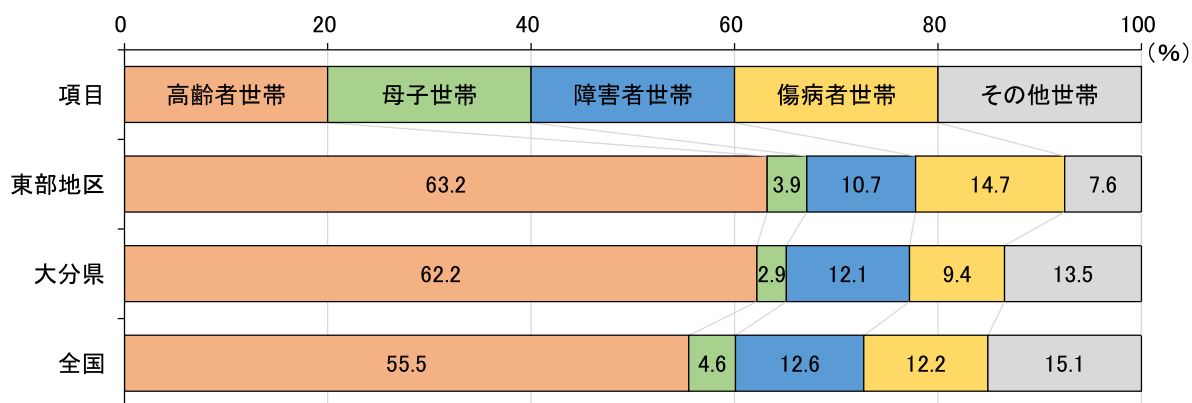
図 世帯類型別被保護世帯数の構成比の推移



(注) 保護停止世帯を除く。

資料：大分県の生活保護（令和2年度実績報告）

図 世帯類型別被保護世帯数の構成比（令和2年度）



(注) 保護停止世帯を除く。

資料：大分県の生活保護（令和2年度実績報告）

## 2 意識調査からみえる現状

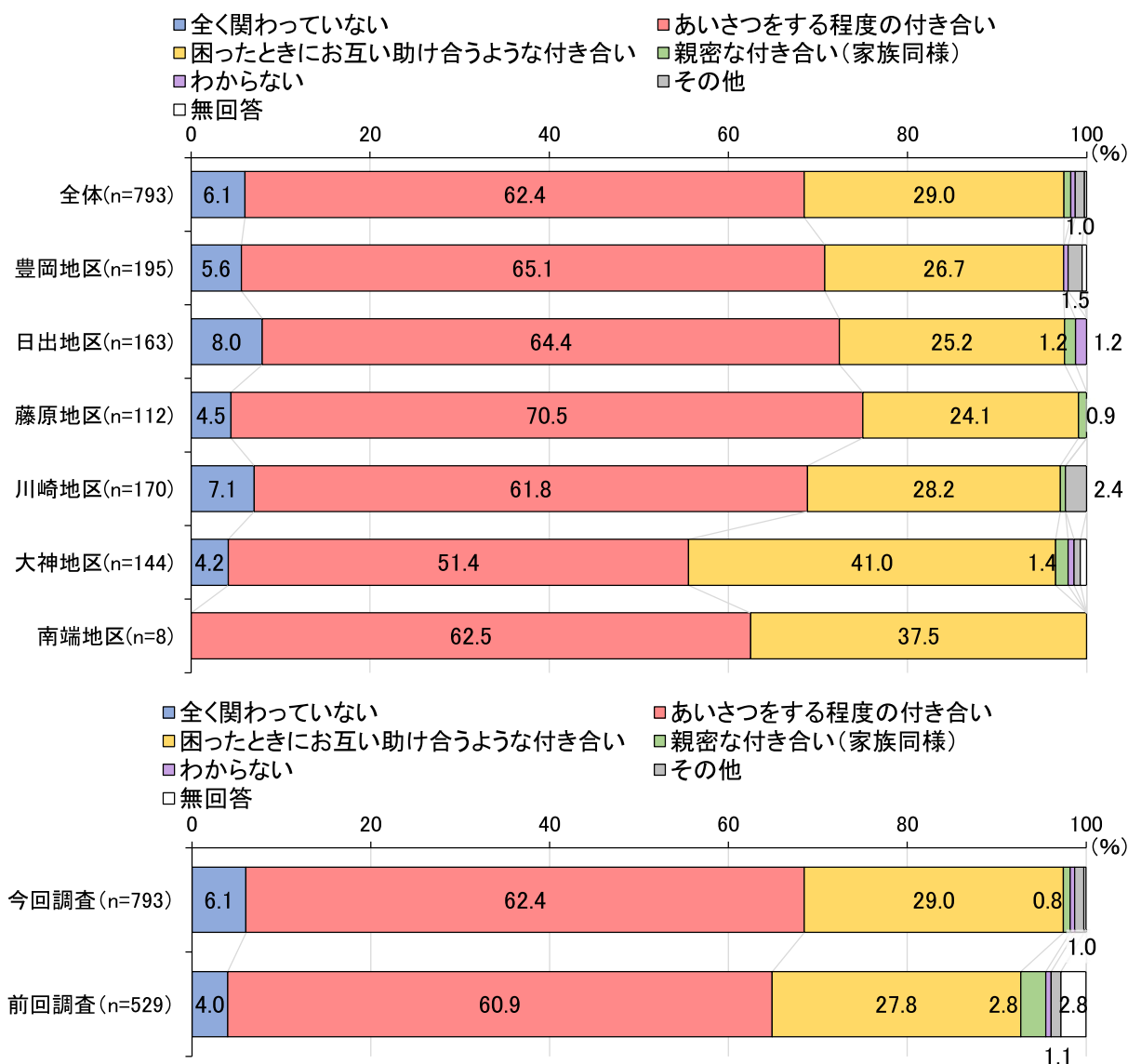
### (1) 住民意識調査

#### ① 普段の近所付き合い

「あいさつをする程度の付き合い」が62.4%と最も高く、次いで「困ったときにお互い助け合うような付き合い」の29.0%、「全く関わっていない」の6.1%となっています。

地区別でみると、「困ったときにお互い助け合うような付き合い」は、大神地区が41.0%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「全く関わっていない」が2.1ポイント高くなっており、「親密な付き合い(家族同様)」が2.0ポイント低くなっています。

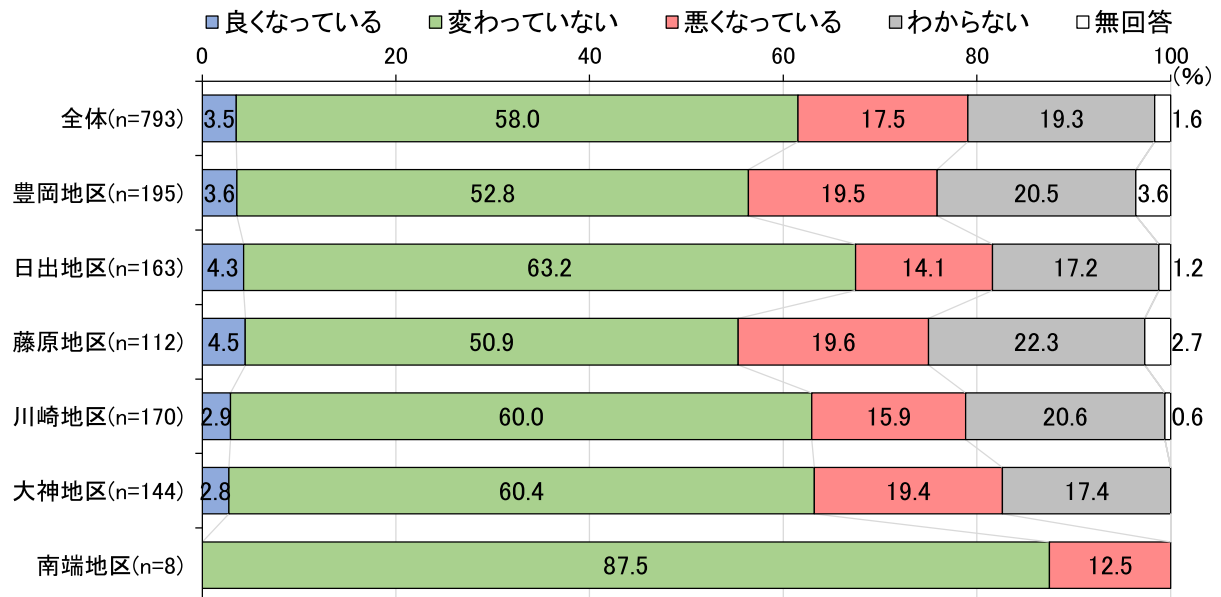


資料：町民意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

## ② 普段の暮らしの中で、不安に思うこと

全体で見ると、「変わっていない」が 58.0%と最も高く、次いで「わからない」の 19.3%、「悪くなっている」の 17.5%、「良くなっている」の 3.5%となっています。

地区別にみると、藤原・豊岡・大神地区では、悪くなっていると回答した割合が2割程度となっています。



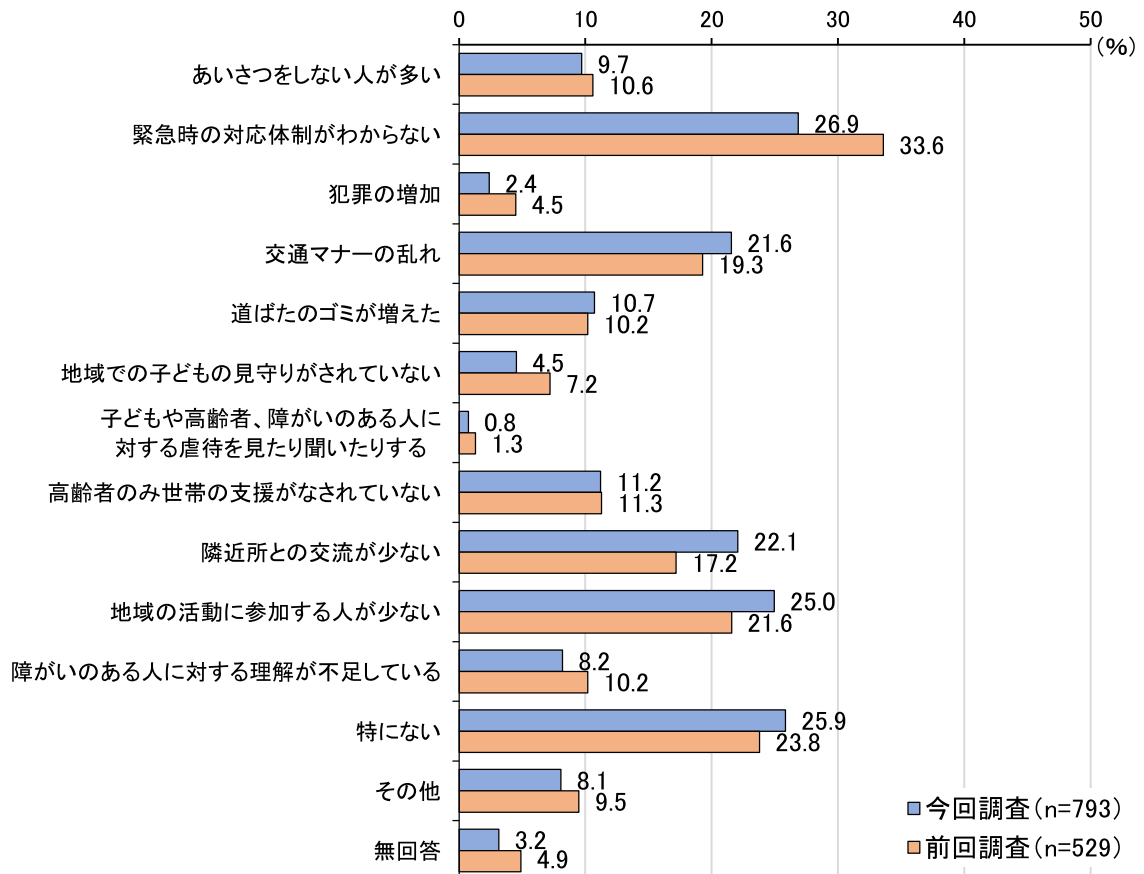
資料：町民意識調査結果



### ③現在、あなたの住んでいる地域の中で、問題だと考えているもの

全体で見ると、「緊急時の対応体制がわからない」が26.9%と最も高く、次いで「特にない」の25.9%、「地域の活動に参加する人が少ない」の25.0%、「隣近所との交流が少ない」の22.1%となっています。

前回調査と比較すると、「緊急時の対応体制がわからない」は6.7ポイント低くなり、「隣近所との交流が少ない」は4.9ポイント高くなっています。



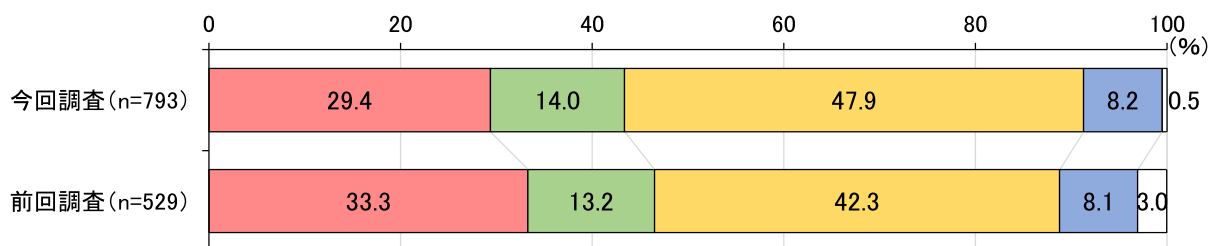
資料：町民意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

### ④民生委員・児童委員の認知度

「知らない」が47.9%と最も高く、次いで「顔も名前も知っている」の29.4%、「名前だけ知っている」の14.0%、「民生委員・児童委員がわからない」の8.2%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」は5.6ポイント高くなり、「顔も名前も知っている」は3.9ポイント低くなっています。

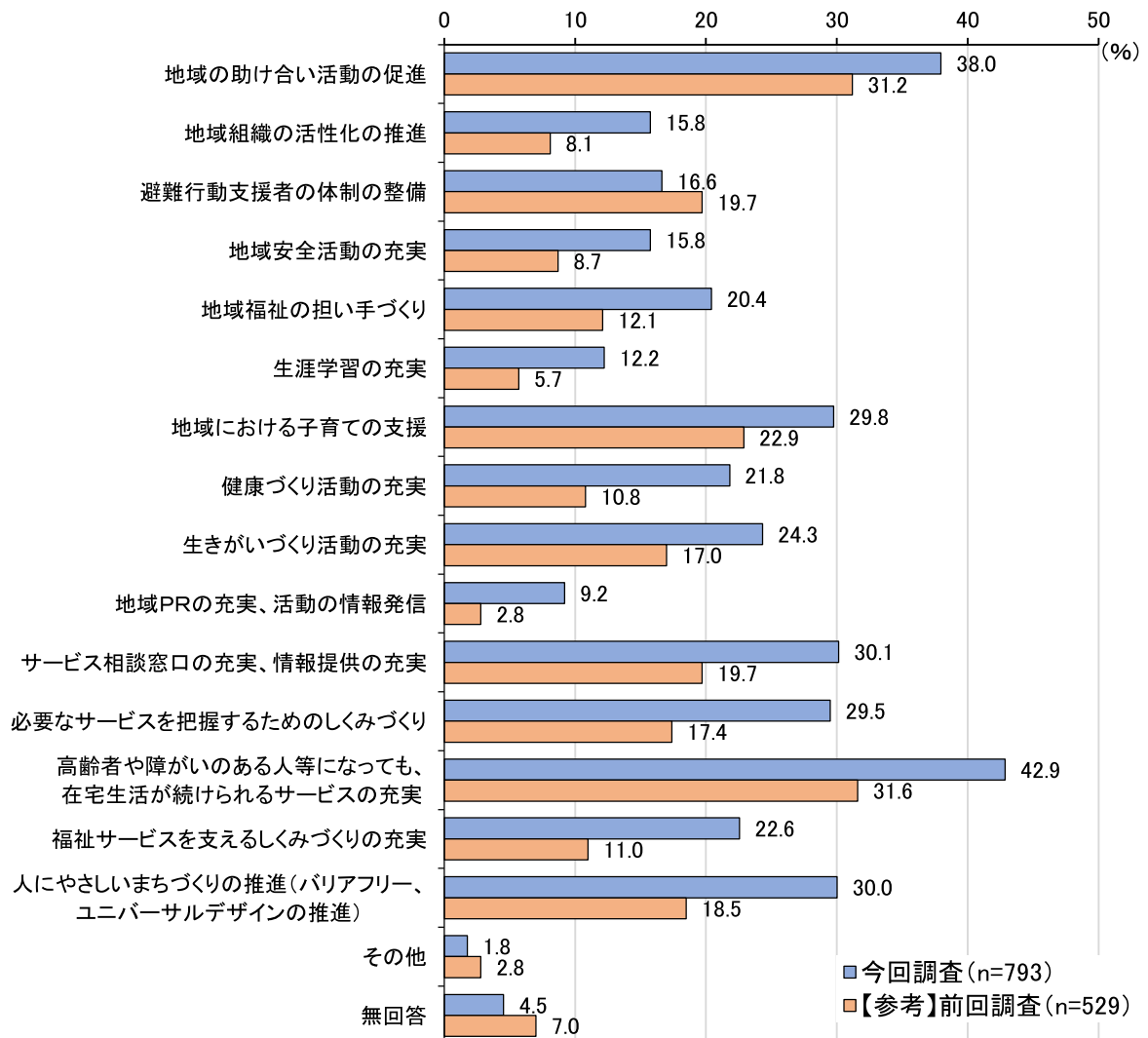
■顔も名前も知っている ■名前だけ知っている ■知らない ■民生委員・児童委員がわからない □無回答



資料：町民意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

### ⑤ 日出町の地域福祉施策について重要であると思うもの

「高齢者や障がいのある人等になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」が42.9%と最も高く、次いで「地域の助け合い活動の促進」の38.0%、「サービス相談窓口の充実、情報提供の充実」の30.1%となっています。

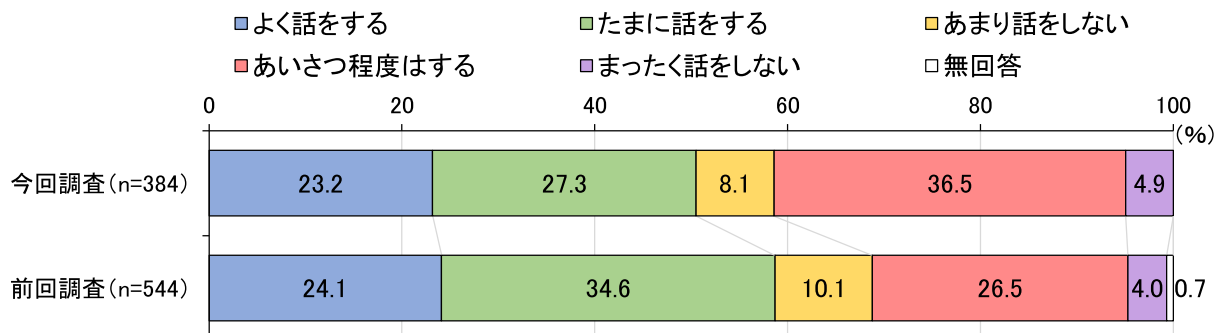


資料：町民意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

## (2) 中学生意識調査

### ① 近所との関わり

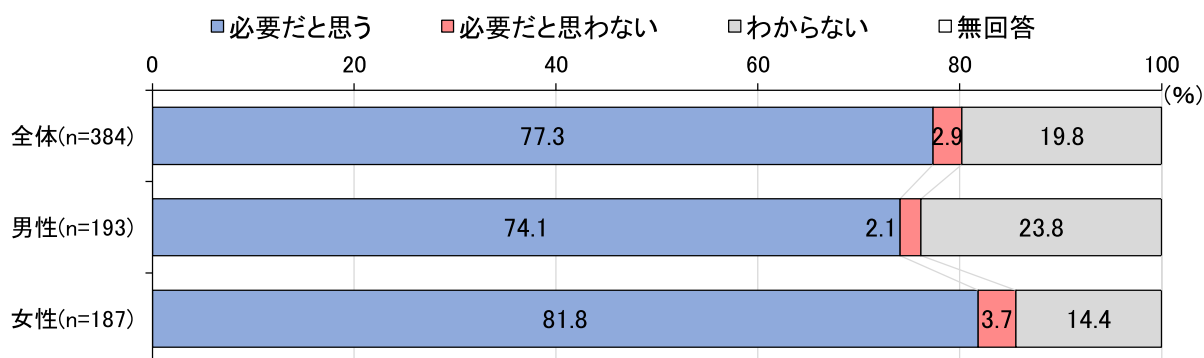
前回調査と比較すると、「あいさつ程度はする」は 10.0 ポイント高くなり、「たまに話をする」は 7.3 ポイント低くなっています。



資料：中学生意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

### ② 近所による支え合い、助け合いの必要性

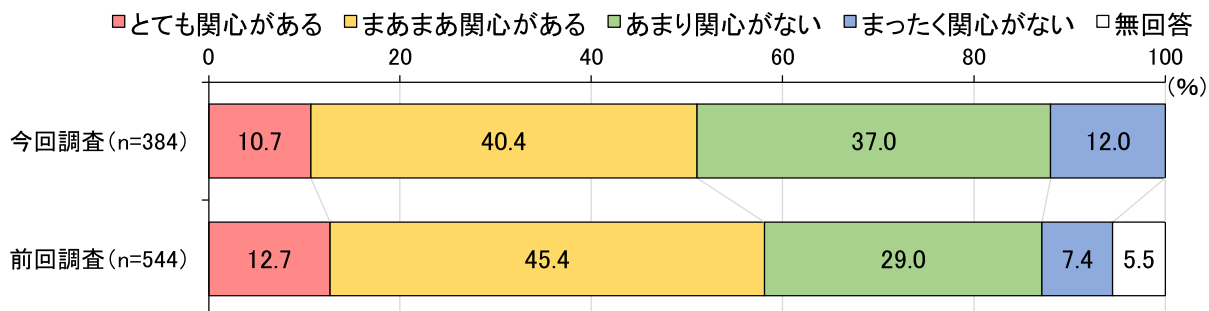
「必要だと思う」が 77.3%、「必要だと思わない」が 2.9%、「わからない」が 19.8% となっています。



資料：中学生意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

### ③ 「福祉」の関心度

前回調査と比較すると、『関心なし(「あまり関心がない」+「まったく関心がない」)』は 12.6 ポイント高くなっています。

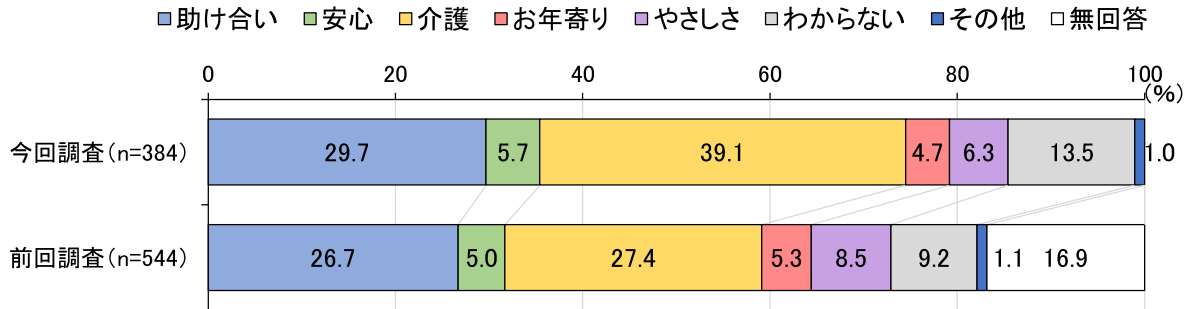


資料：中学生意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

#### ④「福祉」という言葉から連想するもの

「福祉」という言葉から連想するものについて、「介護」が39.1%と最も高く、次いで「助け合い」の29.7%となっています。

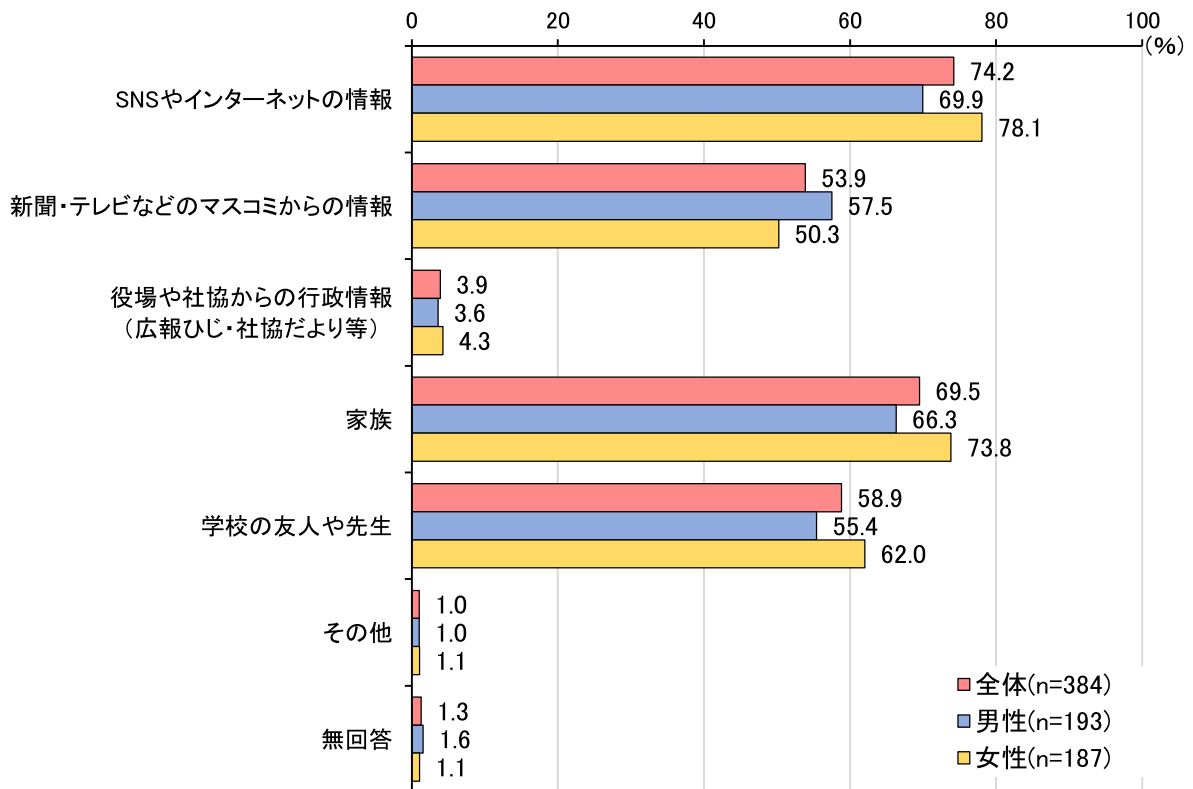
前回調査と比較すると、「介護」「助け合い」「安心」「わからない」の割合が増加しています。



資料：中学生意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

#### ⑤暮らしの情報源について

「SNSやインターネットの情報」が74.2%と最も高く、次いで「家族」の69.5%、「学校の友人や先生」の58.9%となっています。



資料：中学生意識調査結果【今回調査(令和4年実施)、前回調査(平成29年実施)】

### 3 地区座談会からみえる現状

各地区座談会の主な意見は以下の通りです。

同じ地区でも班の現状によって、地域の抱える課題は異なりますが、多くの地区の意見として、「以前から住んでいる住民同士の繋がりは強いが、転入・移住者との繋がりが弱い」、「道路環境は改善されているが、高齢者等の交通手段がない」、「個人情報保護の観点から情報が入ってこない」、「高齢化、コロナ禍により地域活動が停滞している」等の意見が多く出されています。

地区名	地域の強み	地域の弱み
南端地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣り近所の繋がりが強く見守り活動ができている。</li> <li>・日出インターがあり、交通の便が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許返納に伴い、買い物、通院が不便となる。</li> <li>・道路や水道などのインフラ整備ができていない。</li> <li>・学校への送迎が負担となっている。</li> <li>・高齢化が進み、若い人がいない。</li> <li>・高齢化により、地域活動の運営ができない。</li> </ul>
豊岡・平道地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の繋がりがあり、見守りや連絡体制ができている。</li> <li>・通勤、通学や買い物などの便利が良く、災害もないため生活環境が良い。</li> <li>・若者の人口も増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入者・移住者・団地住人との関わりがない。</li> <li>・区には入るが班に入らない方がいる。</li> <li>・空き家対策を進める必要がある。</li> <li>・防災無線が聞こえない。</li> </ul>
日出地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣保班など概ね協力体制がある。</li> <li>・交通が便利のため、買い物、通院など生活環境が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入者との繋がりが弱い。</li> <li>・個人情報保護法により、民生委員にも情報がない。</li> <li>・高齢化やコロナにより地域活動が停滞している。</li> <li>・交通手段のない高齢者には買い物が不便である。</li> </ul>

地区名	地域の強み	地域の弱み
藤原地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の便が良い。コミュニティバスが団地内に入っているのを助かる。</li> <li>・地域の繋がりが強い地域である。</li> <li>・災害に強い地域である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の便が悪い。デマンド交通の復活を願う。</li> <li>・転入者との繋がりが弱い。</li> </ul>
川崎地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅が増え、若い人が増加している。</li> <li>・住民同士のつながりが強く、地域活動が充実している。</li> <li>・災害が少ない地区である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アパート住民との繋がりが弱い。</li> <li>・個人情報保護の観点から、どのような困りごとがあるか把握できていない。</li> <li>・世帯・人口の減少で、地区行事の維持が困難となっている。</li> <li>・共助が減少し、より公助が必要となる。</li> </ul>
大神・真那井地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年部が活性化している。</li> <li>・駅や国道があり、通勤・通学、買い物等便利である。</li> <li>・月に一度の地区広報誌で情報共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関が不便。</li> <li>・転入者との繋がりが弱い。</li> <li>・班に入らない人が多い。</li> <li>・高齢化やコロナにより地域活動が停滞している。</li> <li>・防災無線が聞こえない。</li> </ul>



## 4 第3次計画取り組みの進捗状況

### (1) 基本目標1 新しい参加とつながりのしくみを生み出そう!

#### ① みんなでつくる地域福祉

##### 【行政の取り組み】

広報・啓発活動の推進として「広報ひじ」やホームページを通じて、イベントや関係団体の活動を周知しています。民生委員・児童委員を対象とした研修会は実施していますが、一般住民、児童・生徒を対象とした講演会、まちづくり座談会が実施できていません。

##### 【社協の取り組み】

広報・啓発活動として、「社協だより」の発行（年4回）、SNSを活用し社協の活動等についての情報提供、防災・介護研修を行っています。

福祉教育の推進として、小学生・成人を対象とした福祉学習・サロン活動を行っています。

#### ② 地域活動への参加を誘うしくみづくり

##### 【行政の取り組み】

環境美化ボランティアについては、SNSによる情報発信など独自の活動を行っており、青少年活動として町子連主催活動、地区公民館活動などを支援しています。

老人クラブ・子ども会の活動維持に向け、町子連や各地区公民館単位での協議の場を設け、老人クラブのイベント支援、子ども会イベントの実施を行っています。

生活支援コーディネーターによるサロンの状況把握、活動支援を行っています。

公民館主催教室を増やし、自主教室への移行を進めるなどの公民館運営を推進しています。

協働の体制づくりについて、先進的な活動に対する取り組みの表彰を行っています。

##### 【社協の取り組み】

事業パンフレットの紹介・事業説明、つながり応援団等による情報交換・共有の場を設けています。

介護ボランティア養成講座、高校生などの高齢者団体の支援活動の実施を行っています。

#### ③ 地域の特性を活かしたまちづくり

##### 【行政の取り組み】

生活支援コーディネーターによるサロンの状況把握、活動支援を行っています。

公民館主催教室を増やし、自主教室への移行を進めるなど公民館運営を推進しています。

### 【社協の取り組み】

「住民参加型高齢者生活支援団体」、「通いの場 ほほえみ広場」の創設・活動支援を行っています。また、地域課題解決のための資源・人材発掘を行っています。

## (2) 基本目標2 地域の核となるリーダーを育成しよう!

### ①地域福祉の担い手の育成と支援

#### 【行政の取り組み】

民生委員・児童委員や社協への情報提供や社協・関係課との生活課題の共有を行っています。

認知症サポーターの養成、生活支援コーディネーターの活動支援を行っています。

#### 【社協の取り組み】

介護ボランティア養成講座、高齢者生活支援ボランティアミニ講座の開催(計4回)や、「広報ひじ」、「新聞」などの媒体を通じた情報発信を行っています。

### ②民生委員・児童委員への支援

#### 【行政の取り組み】

「民生委員・児童委員の日」及び「活動強化週間」の活動を「広報ひじ」に掲載していますが、民生委員・児童委員の活動の在り方については、引き続き検討します。

#### 【社協の取り組み】

日出町認知症高齢者等 SOS ネットワーク連絡会への参加、相談員との共同による問題解決を行っています。

### ③交流とつながりの中から担い手の発掘

#### 【行政の取り組み】

多世代交流事業の充実やサロン活動の中で健康教育・健康相談を実施しています。

放課後子ども教室、父親の育児参加事業など、子どもに対する支援は実施できたものの、障がいのある方や家族介護者、ひきこもりなどの課題を抱える方に対する交流の場が創出できませんでした。

#### 【社協の取り組み】

地域子育てマップの作成や読み聞かせボランティアサークル、発達障がい児を育てる親の会の支援・育成を行っています。

家族介護者のサロン活動等交流やサポーターとの意見交換を実施しました。



### (3) 基本目標3 みんなを認めあい、支え合うまちづくりをしよう!

#### ①さまざまな住民同士の交流の促進

##### 【行政の取り組み】

月1回、朝の登校時間に関係者が通学路上に立ち、あいさつ運動を実施することで、子ども・家庭・地域でのコミュニケーションのきっかけを作っています。

##### 【社協の取り組み】

下校時に立ち寄れるサロンへのプログラム支援、地域団体と協働で様々な行事を実施しています。

#### ②みんなで支え合う生活支援体制の充実

##### 【行政の取り組み】

子育て支援として、延長保育・一時保育・病児病後児保育・放課後児童クラブの定員拡充を図りました。また、ホームページやアプリを用いた子育て情報の発信を行っています。支援を必要とする子どもや家庭に対しては関係機関と連携し、必要支援に取り組んでいます。

高齢者支援として、情報交換を密にし、ネットワーク強化・支援体制の構築、地域ネットワーク事業による見守りの実施、介護予防教室の開催、介護サービスの周知などを行っています。

障がいのある方への支援として、障害者福祉年金の支給要件改正、障がい福祉サービス体制の整備、就労支援体制の充実に努めています。

権利擁護について、日出町成年後見センターの設置、地域連携ネットワーク連絡協議会にて相談・課題の対応を行っています。

様々な困難を持つ人への支援については、現在、実施できていない状況にあります。

災害時の総合的支援として、令和4年度より避難行動要支援者への個別避難計画の作成に取り組んでいます。

### 【社協の取り組み】

子育て支援として、SNS や HP を活用した子育て情報発信、子育て支援拠点やメール、電話による相談支援を実施しています。また、妊娠・出産・育児などの子育てプログラムの作成・実施を行っています。

高齢者支援として、地域ささえあい事業やエプロン隊などの創出・情報発信、介護保険外サービスの情報収集と共有を行っています。

障がいのある方への支援として、生活福祉資金貸付事業を実施しています。

権利擁護支援として、制度の理解促進のため、チラシ配布による相談窓口の周知、職員の派遣等を行っています。

様々な困難を持つ人への支援として、関係機関・事業所と協働体制の構築を行い、社会資源の活用、つなぎによる問題解決を図っています。

災害時の支援として、災害ボランティアネットワークの立ち上げ、研修、フードドライブや防災食の備蓄に努めています。

## ③みんなが住みやすいまちづくり

### 【行政の取り組み】

交通弱者支援として、デマンド型運行の移行など、県や交通事業者と調査研究を行っています。

防犯について広報「まもるくん」の発行や自主防災組織・日出町防犯協会連合会、警察署等と連携して、防犯に対する普及啓発を行っています。

### 【社協の取り組み】

福祉教育の実施や実体験を聞く交流の場づくり、防犯研修、災害ボランティア登録制度の導入等を行っています。

## 5 現状からみえる課題

### (1) 課題1 人口減少・少子高齢化における人づくりの必要性

日出町の総人口は、平成22年頃をピークに減少傾向に転じており、今後も緩やかに減少が続くものと予想されます。一方、65歳以上の人口は年々増加しており、令和2年の総人口の約30%は65歳以上となっています。

人口減少・少子高齢化の社会にあって、地域福祉の推進における担い手の育成・確保は喫緊の課題であり、多様な人材の確保に取り組む必要があります。

また、子どものうちから福祉への関心を持ってもらうため、継続的な福祉教育を推進することが必要となります。

### (2) 課題2 支え合いの必要性

地域における支え合いは、地域共生社会を実現していくうえで大変重要となります。

普段の近所づきあいについて、町民意識調査結果より、前回調査と比較し、「全く関わっていない」の割合が増加しています。また、中学生意識調査結果においても、前回調査と比較して、近所の関わりが薄くなっている状況にあります。一方、関わり合いの重要性を認識している生徒は7割以上となっており、「支え合い」をキーワードとした地域づくりの在り方について、検討を重ねていく必要があります。

地区懇談会では、これまで地域の強みとして「住民同士のつながり」が多くの地区で挙げられていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により各種活動が停滞し、つながりの希薄化が課題として浮き彫りになりました。また、転入者との交流不足も同時に挙げられており、自治会組織による関係づくりの重要性が支え合いの基盤として認識されるよう地域住民との対話のもとで進められていくことが重要です。

人口減少社会の到来を踏まえ、現行計画評価では、福祉サービス提供者の高齢化や人材確保が課題として挙げられています。支援が必要な人に対する福祉サービスの充実に取り組んでいくためには、行政のみならず多様な機関の連携が重要となります。

町民意識調査結果より、「日出町の地域福祉施策について重要であると思うもの」について、「サービス相談窓口の充実、情報提供の充実」が上位に挙げられています。また、「民生委員・児童委員の認知度」の割合も前回調査と比較し低くなっています。

必要なサービスが、適切につなげられるよう相談先を多様なものにすることが、不安や困りごとの解決につなげられるものと考えられます。

また、地域における生活課題は複雑多様化が進んでおり、その複合化した課題を「我が事」として捉え、地域が一丸となって解決に取り組んでいく必要があるため、重層的な課題解決に取り組んでいくことが求められます。

### (3) 課題3 地域福祉を支える基盤強化

町民意識調査結果「日出町の地域福祉施策について重要であると思うもの」、中学生意識調査結果「学校以外のボランティア活動に参加できていない理由」、地区別懇談会において情報発信と情報共有の重要性は、課題として挙げられています。

現行計画評価より、新型コロナウイルス感染症拡大によって、交流の場やイベント等の中止・縮小などにより情報共有ができないことが課題として挙げられています。

情報を必要とする人に的確な情報が届けられるよう、新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、活動・交流の場を確保するとともに、様々な情報発信手段の活用が必要であり、情報発信の充実が課題認識の向上をも促すことが期待されます。

また、複合化する課題に効果的に対処していくため、福祉サービスの充実や基盤整備・強化に取り組みつつ、町全体が「丸ごと」つながるようなネットワークの強化も求められます。